

輝いた!! 人間野球

創価大学硬式野球部は第55回記念明治神宮野球大会(11月20日~11月25日・明治神宮野球場)決勝で青山学院大学と対戦、準優勝という快挙を成し遂げた。

創部初! 堂々の準優勝

【青学】 400210000000
【創価】 1000000011
37



戦評

明治神宮野球大会・大学の部決勝11月25日13時にプレーボール。今春の全日本大学野球選手権の覇者・青山学院大学が1回表、いきなり5番中田の満塁ホームランで0-4と先制される。創価大学もその裏立石、古和田の連続ヒットでチャンスをつかみ5番中澤の打席で相手投手のワイルドピッチで1点を返し1-4。しかし青山学院も3回表に青山の3塁打と渡部の犠牲フライで1-6と創価大学を突き放す。

さらに4回の表にはエラーが重なり1-7と点差が開いた。その後は両チームの投手の踏ん張り得点を上げられずに終盤に突入した。ここから「心で勝て、次に技で勝て」の精神のもと創価大の反撃が始まる。

試合後 コメント

【田代康則理事長】

一人ひとりの勇姿に感動

選手皆さん、全国大会での激闘、本当に苦勞様でした。また、選手を陰で支えた控えの選手、スタッフの皆さん、そしてパイオニア吹奏楽団、パンサーズの皆さんも寒い中、本当に苦勞様でした。多くの方々の想いを背負って、全国大会で創部以来初となる決勝進出・準優勝という偉業を成し遂げてくれました。最後まで決してあきらめることなく全力でプレーした姿は、卒業生をはじめ、全国並びに世界各地の応援をしてくださった皆様に大きな感動を与えてくれました。本当にありがとうございます。

【鈴木将史学長】

歴代最高となる準優勝の快挙

明治神宮野球大会での準優勝、誠におめでとうございませう。どれだけ厳しい状況になろうとも、全員野球で白球を追いかけ、最後まで粘り強いプレーを繰り広げた選手

8回1死後、大城のセンターへの3塁打のあと今大会絶好調の立石がタイムリーヒットを放ち2-7とする。立石は積極的に走って3塁まで進塁するが後続が打ち取られてこの回を終了。

9回を齋藤が3者凡退に抑えて、さあ、最終回の反撃へ。1死後、宮原のライトへのヒットでチャンスをつかむ。2死後、代打・鈴木が右中間にタイムリー2塁打を打って3-7と追い上げるも青山学院・鈴木に後続を断たれゲームセット。ヒットで青山学院の4本を上回る7本を記録するも悔しい敗戦となった。試合には敗れたものの、終盤の粘りは来年に大きな期待を抱かせるものとなった。創価大学硬式野球部の監督、コーチ、全選手に大きな拍手を送ろう。「もっと輝け!! 創大野球部」

【佐藤康弘監督】
春のリーグ戦4位からの立て直しでしたが、ここまで選手がよく頑張ってくれて嬉しい気持ちです。出場の機会がなかった選手が大事な試合で結果を残してくれた成長したと思っております。女子マネージャーもチームの支えとなって感謝いたします。今回はもう一つ届かなかったですが、来年しっかりとリーグ戦で勝って、ここ(明治神宮球場)に戻って来て日本一になりたいと思います。

【中澤英明主将】
厳しい戦いが多かったですが、応援してくださる皆さんのおかげで必死に食らいついて戦い抜きました。ここまでチームメイトに支えられてきました。みんなに感謝しています。最後に涙が出たのは負けて悔しかったこと、またこのチームでもう試合ができないことが寂しく感じました。大声援が選手一人ひとりの力となりました。応援してくださった皆さんと一緒に戦えてよかったです。